

精密板金加工の 効率化を徹底追求

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



「ものづくりの流れが見える工場」を追求

業務内容 金銭機械向け部品加工で 20年以上の実績

「千代田工業所」の橋本亮二社長は「品質・納期・価格で競争力が求められる金銭機械メーカーと20年以上の取引実績がある」と胸をはる。0.3mm～3.2mmの薄板板金をレーザー、パンチプレス、曲げ、溶接などの方法で加工し、筐体、パネル、シャーシ、機構部品などを製造する。これらの部品が使われるのは券売機などの金銭機械のほか、電子通信機器、医療・理化学機器など。いずれも多品種少量で±0.05mmの高い精度が求められる。

協力企業と連携して材料調達から塗装・印刷、めっき、研磨まで一貫受注し、100台以下の小・中ロット品を受注後2～3週間内に納品する。

強み 「ものづくりの流れが見える工場」を追求

多品種少量の生産体制を作るため、現工場に移転した平成21年頃から5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）活動に取り組んでいる。工場は見通しのきくワンフロア内で工程順に設備を配置、作業指示書を板金の厚さ・ことに色分けするなどの工夫で、「ものづくりの流れが見える工場」を追求する。

見える化により生産工程内のムダを洗い出し、加工作業や工程間運搬の効率化を徹底的に追求する。生産管理ソフトで各工程の進捗状況を把握し、急な生産計画の変更にも柔軟に対応する体制を構築している。

設備投資 最新の生産設備を 年1台ペースで導入

「すごい機械を見ると、導入したくなる」と話す橋本社長。パンチプレス機やレーザー

加工機など工作機械の技術動向への関心が高く、最新設備の導入による生産効率改善に積極的に取り組む。平成21年以降は1年に1台程度のペースでパンチプレス機、レーザー加工機、サーボベンダー、3次元測定器などの生産設備を導入してきた。

平成28年11月にはレーザー、パンチプレス、タッピングの複合加工機を導入。別工程に分かれていた加工を1台に集約して、夜間に量産品を加工できるようになり、同工程の生産能力は1.5倍近くに増えた。

今後の展望 IoT活用で従業員の 意欲と生産性を向上

近年は、券売機などの金銭機械向けの納入実績や最新設備の積極導入が、新規取引先の増加につながる好循環を生んでいる。大手電機メーカー向けのデータ記録装置用部品や車載用蓄電池生産用治具の受注が順調に増えており、平成29年10月期売上高は前年度比約10%増が視野に入ってきた。

生産効率の改善ではIoT（モノのインターネット）技術を使って生産設備ごとの効率を比較し、各設備作業者の能力判断の指標とする取り組みを始めた。作業者の目標達成度を見える化して、報酬に反映し、作業者のモチベーション向上とさらなる生産性向上につなげたいと考えた。



本社の外観



薄板板金の精密加工が主力

当社の歴史



昭和44年に大阪市淀川区で、先代の橋本峯義が溶接業として創業しました。昭和55年頃からプレス加工機を導入して、薄板板金の精密加工を主力としました。「より良いモノを、より速く、より安く」の経営方針のもと、工場の見える化や生産改善に取り組み、多品種少量の柔軟な生産体制を敷いています。

代表取締役 橋本 亮二さん

<http://www.chiyoda-k.jp/>

主な事業内容 薄板精密板金加工

主な取引先(納入先)
グローリープロダクツ(株)、
パナソニック(株)

- 住 所 〒561-0858 豊中市 服部西町5-14-2
- TEL 06-6865-7800
- FAX 06-6865-7801
- 創 業 昭和44年3月
- 設 立 昭和62年11月
- 資本金 3,500万円
- 従業員 20名

大阪 28 ISO 9001 ISO 14001